

大活躍!! おいしい風土こうちサポーター

【サポーター制度の目的】

県では、平成15年11月より『おいしい風土こうち(地産地消推進)サポーター』という制度をスタートさせています。これは、民間の団体や事業者や高知県内の一般消費者で地産地消の活動を実践していただける方を登録し、サポーター間の情報交換や交流を通して活動をさらに深めていただくことを目的として、平成17年1月現在で総数212の団体やグループ、個人の方々に登録されており、その内訳は、生産側サポーターと消費側サポーターが半々という状況です。

サポーターには、のぼり旗やステッカーを提供し、ホームページでも活動を紹介します。また、県は、サポーター間の交流の支援をしており、これまでに「実際に取引につながった」「生産者と消費者の交流の機会が持てた」など活発な活動が報告されています。(サポーター制度の詳しい内容については、上記『おいしい風土こうちホームページ』にて紹介しています。)



のぼり旗(大)
イベントや催し物でご利用いただけます。



のぼり旗(小)
店内装飾としてご利用ください。



ステッカー
縦13cm×横20cm



地産地消ロゴマーク
中央の手は「生産側と消費側の連携」をイメージしています。
印刷物やホームページなどで使用できます。

【サポーターの活動事例】

- (事例1)「サニーマート元気家」さんと「ミネラルファーム(野菜生産者グループ)」、「アグリキラポテト(ジャガイモ・サツマイモ生産者)」さんは、「高知の食を考える会」の取引マッチングを通して継続的な取引を行っています。
- (事例2)「すくも湾漁業協同組合まき網船協業体きんちゃん」は、「高知新阪急ホテル」や「オリエントホテル」など高知市内のサポーターへキビナゴの納入ルートを開拓しています。
- (事例3)「海の研究舎」さんの深層水スジアオノリは、「土佐藩」の『土佐の郷土料理』メニューの食材として使われるなど飲食関係のサポーターに好評です。
- (事例4)「県生協食堂コープ」では、「とさのさと(直販所)」や「なっぱクラブ(野菜生産グループ)」から定期的に食材を購入しています。
- (事例5)「高知の街を考える十八会」は、『「司牡丹」社長と風土食を語る』と題して日本酒を主題の催し物を開催しました。

【お願い】

サポーターのひとつひとつの活動は小さな取り組みでも、多くのサポーターの活動が積み重なって大きな流れになっていくと期待しています。今後、様々な機会を利用してサポーターの方々のご紹介していく予定ですので、皆様には、地域で地産地消を実践している団体などご存じでしたらサポーター制度をご紹介くださいますようお願いいたします。